

# 企業の社会的責任（CSR）

## CSRの基本的な考え方

ANAグループにかかわりのあるステークホルダーは、お客様、株主・投資家、取引先、地域社会など、さまざまです。ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通じて、社会との共生を図りつつ、企業価値を向上させ、ステークホルダーの皆様に対する責任を果たしていくことが、ANAグループのCSRの基本です。

ANAグループでは、役職員一人ひとりが「ANAグループ経営理念」を実現するために安全責任を中核として行動し、ステークホルダーの皆様に関心をお届けし、信頼を得ることができるようCSRを実践しています。

1. 安全責任、コンプライアンス責任を果たすことを通じて経済責任\*を果たす（ベースライン）。
2. 品質向上と社員価値の増大を図るため、CS（Customer Satisfaction＝顧客満足）とES（Employee Satisfaction＝社員満足）を向上させる。
3. さらに、社会的課題、環境問題などの解決に取り組む。

※ ここでいう経済責任とは、リスクマネジメントを徹底した有効で効率的な事業運営を行う責任であり、コンプライアンス責任と合わせて内部統制システムの充実を意味しています。

## CSRの推進体制

ANAグループでは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを充実させるとともに、本業を通じた社会への貢献をCSRの基本としており、特別な活動を展開するのではなく、これまで取り組んできた活動を、より誠実に推進していきます。それにより社会との持続的な共生を図りつつ、企業価値を向上させ、ステークホルダーに対する責任を果たしていきます。

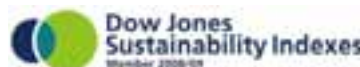
CSR推進体制としては、社長を総括とする「CSR推進会議」を最高意思決定機関と位置づけるとともに、2007年4月に新設した「CSR推進室」をCSR推進の統括部署とし、この下部組織として内部統制および環境・社会貢献にかかわる各部署を設置し、積極的な取り組みを行っています。

取り組みの詳細についてはCSRレポートを発行し、ホームページ上でも公開しています。

(<http://www.ana.co.jp/ana-info/ana/csr/index.html>)

## 外部からの評価

ANAは、環境保全に向けた積極的な行動、ステークホルダーとの建設的な関係構築、人権擁護に対する取り組み、贈収賄防止に対する取り組みといった社会的責任に関するFTSE4Good Indexの基準を満たした企業として、FTSE4 Good Indexの対象銘柄に継続して採用されています。また、Storebrand社のBest in Class、モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)、Dow Jones Sustainability Asia Pacific Indexなどの主要な指標にも採用されています。



## 安全マネジメント

### ●安全への取り組み

ANAグループでは、「ANAグループ安全理念」を制定し、「安全は経営の基盤であり、社会への責務である」と定め、航空運送事業で果たすべきANAグループの責務を明らかにしています。

そしてこの理念の中で、安全を堅持するというANAグループの文化を受け継いで、安全を維持し高めるための普遍的で基本となる3つの要素、「会社の役割と責務」「組織の役割と責務」「従業員の役割と責務」について、全役職員に明示しています。

### ANAグループ安全理念

安全は経営の基盤であり、社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと  
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある誠実な  
行動により、安全を追求します

## ●安全マネジメント体制

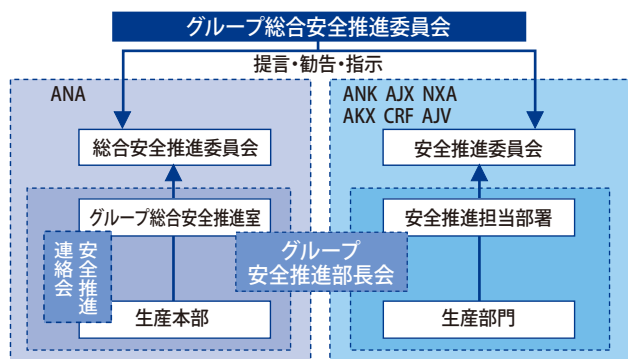
2006年10月の改正航空法を含む運輸関係事業法の改正、施行により、航空各社に安全マネジメント体制の構築を目的として、輸送の安全確保に関する新たな制度と内部安全監査制度が義務づけられました。

これに伴いANAグループは、輸送の安全確保のための考え方を明確にした「安全管理規程」を最上位規程として新たに定め、安全に対する強い権限を持つ「安全統括管理者」を設け、SMS<sup>※1</sup>の取り組みを統括的に管理・推進する体制を構築しています。ANAグループの各航空会社では、安全推進委員会の委員長がこの任に当たっています。

また、安全にかかわる重要事案について情報を共有し、安全に関する方針を定め、各社に対して提言、勧告と指示を行う最高の審議・決定機関として、グループ総合安全推進委員会を設置しています。

さらにANAグループは、2002年3月期より内部安全監査制度SAFER<sup>※2</sup>を導入しており、当期からは監査員の資格制度と養成訓練をANAグループの航空会社共通とするなど、より質の高い監査を目指しています。

このような体制の下、国際的に認知された安全監査プログラムであるIOSA<sup>※3</sup>に、ANAが2004年に日本の航空会社として初めて登録を果たし、このほかANAグループにおいてもエアーニッポン(株)、(株)エアーニッポンネットワーク、(株)エアーアジア、エアーネクスト(株)が登録されています。IATA(国際航空運送協会)への加入要件でもあるIOSA登録は、安全に関する国際標準を満たしている証となっています。



※1. Safety Management System: 航空会社の経営トップから現業部門まで一丸となって、航空輸送のすべての分野で、今までの再発防止型の活動に加え、組織的に未然防止型の活動を実施していくためのしくみ。

※2. Safety Evaluation and Review Program

※3. IATA Operational Safety Audit

## 環境保全活動

### ●業界初、環境省より「エコ・ファースト企業」に認定

ANAグループは、2008年11月環境省が創設したエコ・ファースト制度に基づき、環境大臣に「エコ・ファーストの約束」を行い、「エコ・ファースト企業」に認定されました。これは、ANAグループの環境への取り組みと社会的責任を重視する企業姿勢が高く評価されたもので、航空業界、運輸業界を通じて認定企業の第一号となりました。

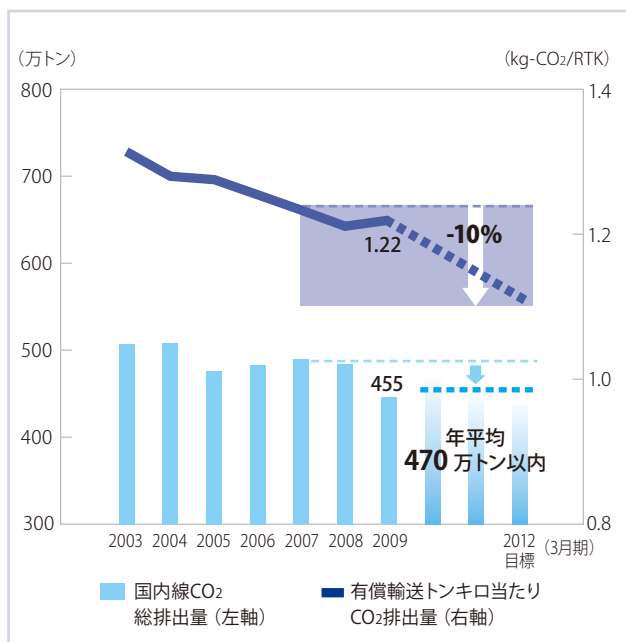


### ●地球温暖化対策

ANAグループでは、持続可能な地球環境との共生を実現するため、早くからさまざまな環境対策に取り組んできました。2008年5月には、環境面でも世界のリーディング・エアラインであり続けようという強い思いを込めて、「ANAグループ エコロジープラン2008-2011」を発表しました。これは、従来の諸対策に加えてさらに一歩踏み込んだ目標を設定したプランで、航空業界で初めてCO<sub>2</sub>総排出量目標(国内線)を設定しました。2007年3月期に比べ、期間平均で年間約20万トンの削減を目指します。また、輸送量単位当たりのCO<sub>2</sub>排出量を削減する目標も設定しており、2012年3月期において、2007年3月期比で10%の改善を図ります。

今後も、新機材の導入、ネットワークの見直し、機材の適正配置などを継続的に進めていきます。さらに、2009年3月期には、地球温暖化への取り組みをさらに進化・加速させるため、部門横断的な「燃費プロジェクト」を発足しました。社員一人ひとりの強い意志とチームワークでさらなる改善を進めていきます。

## ■ ANAグループCO<sub>2</sub>排出量目標と実績



上のグラフは「ANAグループ エコロジープラン2008-2011」で目標としている国内線CO<sub>2</sub>総排出量と国内・国際合計の有償輸送トンキロ(RTK)当たりのCO<sub>2</sub>排出量の推移です。2009年3月期は、世界的な景気減退に伴う利用率の低下で、RTK当たりCO<sub>2</sub>排出量は1.22Kgとなり、前期より増加しましたが、省エネ努力により最小限の悪化に抑えました。加えて、路線の見直しや投入機材の適正化などにより、国内線総量では455万トン、国際線と合わせた総量では806万トンとなり、いずれも前期より削減しました。

一方で、社会的な関心が高まってきている排出量取引制度については、2008年12月に政府の「国内排出量取引制度(通称)」へ参加を表明しました。航空業界を代表して、ポスト京都に向けて日本のCO<sub>2</sub>排出量削減につながる方策を提案し、排出量取引制度の有効性の検証を含め、制度の構築に積極的に貢献していく考えです。バイオ燃料についても、航空業界全体の課題として、関係する国際機関、省庁、航空機メーカーと連携しつつ、調査・研究を進めています。

また、今年で4年目となる「e-flight」も、ご利用いただくお客様に対して、「環境」がANAグループがご提供する航空輸送サービスの大切な品質の一つであるという企業姿勢をお伝えする場として継続実施します。

## 環境社会貢献活動

### ● 全国の空港周辺の森づくり

2004年に10年計画で着手した「私の青空」森づくりは、ANAが就航している国内50空港周辺を中心に植林を進める活動で、現在までにタイ、中国も含めて、国内外32カ所で実施しています。2008年11月に実施した、米子空港に近い弓ヶ浜での「私の青空 米子空港・ハマヒルガオの森」では、スターアライアンスメンバーである韓国・アジアナ航空と初のCSR協働活動として森づくりを行いました。



### ● 国際環境絵本コンクール

2003年にスタートした「私の青空」国際環境絵本コンクールは、次世代を担う子供たちに「環境、自然、生き物、資源を大切に」する心を伝えるとともに、「家族や友人同士で環境について話し合う」機会を提供することを目的に継続開催しています。2008年の第6回の絵本コンクールには、海外10カ国を含め475点の応募があり、選考の結果、大賞



にはホノルル在住のジェシカ・ヘブラーさん(10歳)の「この色なあに? (WHAT COLOUR IS THIS?)」が選ばれました。

### ● サンゴ再生プロジェクト〜チーム美らサンゴ

沖縄県内外の企業とともに、沖縄の恩納村のサンゴ群集の回復、保護活動を行うこのプロジェクトは、2004年に発足し、今年で6年目を迎えます。2008年も、春と秋に2回ずつボランティア参加の一般ダイバーの手で232本の苗を植えつけました。

